

平成25年3月27日

石巻市雄勝地区における 教育推進に関する提言書

石巻市教育委員会
教育長 境 直彦 様

雄勝の子どもと学校の在り方を考える会
会長 澤村 文雄

平素は、雄勝地区の教育活動について、格別の御配慮と御指導を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、雄勝地区は日本一の硯の産地であるとともに、水産資源に恵まれた豊かな地区でした。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により、地区の中心地等が壊滅的な被害を受け、地区人口が4300人から1000人程に激減してしまいました。また、地区内にあった5つの小・中学校のうち3校が使用できなくなりました。

これに何とか地区としての対応策を考えようと、震災後の平成23年7月、「雄勝の子どもと学校の在り方を考える会」を設置し、協議を重ねてまいりました。

これまで、会員の協議だけでなく、佐賀市、福岡市、京都市、横浜市、沖縄県等の先進校視察研修、専門家を交えた話し合いや研修を実施してきました。

このような経過を踏まえ、雄勝地区により高い教育効果の期待できる学校をつくり教育を推進したいという結論に達しました。



震災により大きな被害をこうむった地区内に、魅力のある学校づくりを行うことが、若年層の地区外への流出に歯止めをかけるとともに、地区外へ出た住民が雄勝に戻りたくなることにも寄与できます。

これまで「雄勝の子どもと学校の在り方を考える会」で検討した新しい学校の骨格は以下のとおりです。

- ① 地域の伝統や歴史的風土に学び、自信と誇りを持てる学校とする。
- ② 防災設備が充実しており、地域と学校が一体となって安全教育に取り組むモデルとなる学校とする。
- ③ 学校の形態は、教育効果を考えると小中一貫校が望ましいが、これに関しての議論が煮詰まっていないので、小中一体型の併設校も考えられる。
- ④ 避難所ともなる「寄宿舍」のある学校とする。これにより、地域の防災環境が高まるとともに、雄勝地区外に転居せざるを得なかった家族の子弟が、雄勝の学校に通うことができるようになる。
- ⑤ 上記のことを考慮し、小規模特認校とする。
- ⑥ 雄勝地区には、保育所がない。新設される学校に併設する状態で開設する。加えて、地域の公民館も学校と隣接して設置する。
- ⑦ 台風や震災等により雄勝地区が、「陸の孤島」となりがちなこと
から、給食は自校方式
とする。

教育委員会におかれましては、雄勝地区の実情と学校づくりに対する地域、保護者の熱意を御賢察いただき、下記のとおり、一日も早く進めていただきますように、特段の御配慮を重ねてお願い申し上げます。

記

- 1 雄勝地区に、震災等に対応するモデルとなるような、小中学校等を早急に建設していただきたい。
- 2 新しい学校がスムーズに実現できるように、平成25年度の準備期間から、教育課程の整備や熱意のある教職員の配置など指導体制の充実をお願いしたい。